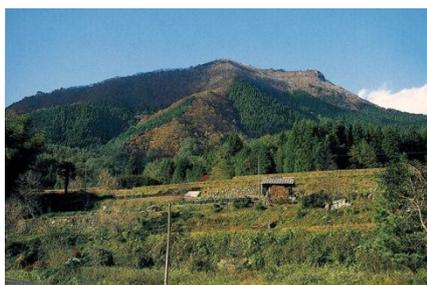


5. 広島市佐伯区最高峰

大峯山 (1050.0m)

広島市佐伯区



湯来町と佐伯町との境にあり、広島市最高峰でもある。独立峰で四方から仰ぎ見ることができ、山頂の岩峰からは360度周囲が見渡せる。

広島市佐伯区	2017,4,1 推定
<面積>	225.22 km ²
<人口>	137,456人
<人口密度>	610人/km ²

【山行日】11月13日(月) ☆天候：晴れ
【参加者】4名 CL西田文雄 作間 松本 新江
【コースタイム】

新幹線口西8:15⇒県庁北⇒廿日市市玖島分れ⇒下川上登山口(旧分校跡)9:30→10:05 別荘地終点登山口→10:20 ベンチ→10:50 尾根上→11:10 展望地点→三角点→11:20 山頂の岩峰(昼食)12:10→西大峰13:20→西登山口14:20・・・徒歩・・・14:50 下川上登山口(旧分校跡)

【報告】

廿日市市の玖島分れから北西方約2kmにある下川上集落奥の旧分校跡地に着いた。旧分校跡地は駐車場、イベント広場として整備され、トイレも設置されて大峯山の登山拠点になっている。

隣接する別荘地内の舗装道路を北へ登ると終点に貯水槽がある。この脇に登山道入口があり、登ること約20分でベンチに着く、小休止に好適地である。

山腹の整備された登山道を登るとやがて尾根上に取り付いた。この尾根をさらに登り続けると展望のできる小岩があり、ここからは山頂東側の絶壁を望むことができた。急傾斜の道を登り続け三角点に到達した。ここから北東の岩峰に取り付くとその上が頂上である。天気が良かったので360度の展望ができた。

西大峯山へは三角点まで戻って、西方に延びる尾根を進む。約5分ほどでブナの巨木が見えてくる。尾根道を登り下りを繰り返しながら1時間程で西大峯山の四等三角点に到着した。

山頂から来た道を少し戻って、南方の滝コースへの道を下った。途中の左手に一筋の滝が見えてきた。さらに下り、七人墓の墓石と案内板を見て下り西登山口に到着した。

ここから自動車道を東に約30分歩き、今日の登山口である駐車場に着いた。

(記 西田文雄)



大峯山登山口への道筋に大田洋子の墓がある・・・



玖島に地域の方が交代で受け付け維持されている資料館「佐伯歴史民俗資料館」がある。入館して目に付くのは、引き伸ばされた古ぼけた白黒写真、大田洋子の画像だ。大田洋子は、峠三吉、原民喜などと共に原爆作家として名が知られている。「この世界の片隅に」で一躍有名になった漫画家こうの史代の前作「夕風の街 桜の国」の下敷きになったのは、作風・内容は異なるが、大田洋子の「夕風の街と人と」「桜の国」であると言われる。白島での被爆体験を描いた「屍の街」

や基町バラック住宅での生活を描いた「夕風の街と人と」は読んだ記憶があるが、この村と大田洋子が結び付かない。被爆後、白島九軒町で数日野宿して、その後、郊外へ逃げ延びているはずだが、それがこの玖島村だった。「屍の街」にはちゃんと書かれていて読んだはずなのに、逃れた村の固有名詞は広島近辺どこの村でも同じ様子だったので記憶に残ってなかったのだ。

この人の墓は広島市内にあったが移されたという話は聞いた記憶がある。母親の再婚先で、幼少期を過ごしたこの地に移されていたのだ。大峯山の登山口への途中にあり、今まで何度か往来していたのに気付かなかった。峠三吉碑前祭や原民喜の花幻忌などは耳にしたことがあるが大田洋子に関しては聞いたことがない。しかし、この玖島で守られていたのだ。「玖島うおーきんぐマップ」には大田洋子の墓がコースに入ってる。



広島市佐伯区最高峰 大峯山山頂で



今までやまぼうしで登った佐伯区の他の山

- 東郷山 大茶臼山 柚木城山
- 窓ヶ山 向山 阿弥陀山
- 上勝成山 下勝成山
- 天上山 湯来冠山 恵下谷